

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	043 -	事業名	公害対策事業		担当部課	くらし文化部環境課			
基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ 万博理念を継承し、自然・環境にこだわるまち	会計区分	一般会計					
	まちづくり行程表・フラッグ	✓ 「みどり」～ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちに～	予算区分(款 - 項 - 目)						
	第6次総合計画・基本目標	✓ みんなで未来へつなぐ 緑はまちの宝物	4-3-1 公害対策費						
	法定受託事務の有無	-							
	その他(関係計画、要綱等)	✓ 環境基本法、愛知県環境基本条例 等							
事業開始の背景、経緯等	第二次大戦後の産業の復興と急速な工業化に伴い、大都市を中心に公害問題が発生し、近年では、自動車走行に伴う大気汚染や生活排水による水質汚濁に代表される都市・生活型公害が問題となってきている。								
事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 騒音・振動・水質等の定期的な測定を行う。また、環境汚染事故発生時に対処するため、緊急対応の環境測定を行う。							
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 騒音・振動・水質汚染・悪臭・土壌汚染							
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市民の健康の保全と生活環境保全							
	事業を構成する事務事業(B票)	① 公害対策事務事業	改善・見直し	④					
	② 公害対策整備事業	拡充	⑤						
	③		⑥						
コスト推移	項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)	
	事業費(A)	千円	予算	3,235	3,238	3,734	3,705	3,859	
			決算	2,157	2,125	2,934	3,336		
	人件費(B)	千円	決算	2,291	1,712	4,559	4,973		
総コスト(A)+(B)	千円	決算	4,448	3,837	7,493	8,309			
成果推移	成果指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)	
	A 香流川におけるBOD値	mg/ℓ	目標	8mg/ℓ以下	8mg/ℓ以下	8mg/ℓ以下	8mg/ℓ以下	8mg/ℓ以下	
			実績	8mg/ℓ以下	8mg/ℓ以下	8mg/ℓ以下	8mg/ℓ以下		
	B 県道力石名古屋線等騒音レベル	昼間・夜間dB	目標	75・70dB以下	75・70dB以下	75・70dB以下	75・70dB以下	75・70dB以下	
			実績	72・66dB	71・67dB	72・67dB	69・63dB		
	C		目標						
実績									
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)									
A 微生物が有機物(汚れ)を食べるために使った酵素量で水質汚濁の指標である。									
B 自動車騒音に係る環境基準の達成状況を把握する指標。									
C									
環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 生活環境の多様化に伴い、環境問題も複雑化している。							
評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 香流川の水質は、環境基準、自動車騒音は、要請限度を超過していない。							
	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 特に問題なし。							
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 緊急時に対応するために専門知識や危機管理能力の不足。							
今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 定期的な水質検査と主要事業所の排水調査、自動車騒音測定を継続していく。							
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 緊急時に対応できるよう職員の研修や事例研究に努めていく。							

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	
------	-------------------------	--

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	公害対策事業		担当部課	くらし文化部環境課	決算書ページ	—
事務事業名	①	公害対策事務事業	予算区分	4-3-1 公害対策費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	—	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) <ul style="list-style-type: none"> 河川やため池の水質検査及び主要事業所の排水調査 幹線道路における自動車騒音測定 緊急時における環境測定
意図	(対象をどのような状態にしたいか) <ul style="list-style-type: none"> 市民の健康の保全と生活環境保全

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算 決算	3,235 2,157	3,238 2,125	3,734 2,934	3,668 3,299	3,821
<備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）>							
(1)	環境保全対策事業委託						3,240 千円
(2)	消耗品費						48 千円
(3)	県フロン回収システム推進協議会負担金						10 千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
香流川におけるBOD値	mg/l	見込 実績	8 mg/l以下 8 mg/l以下	8 mg/l以下 8 mg/l以下	8 mg/l以下 8 mg/l以下	8 mg/l以下 8 mg/l以下	8 mg/l以下
県道力石名古屋線等価騒音レベル	昼間・夜間 dB	見込 実績	75-70 dB以下 72.66 dB	75-70 dB以下 71.67 dB	75-70 dB以下 72.67 dB	75-70 dB以下 69.63 dB	75-70 dB以下
<備考：活動の概要（30年度(2018)）>							
河川やため池の水質検査及び主要事業所の排水調査。幹線道路における自動車騒音測定。緊急事故発生時における環境測定調査。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

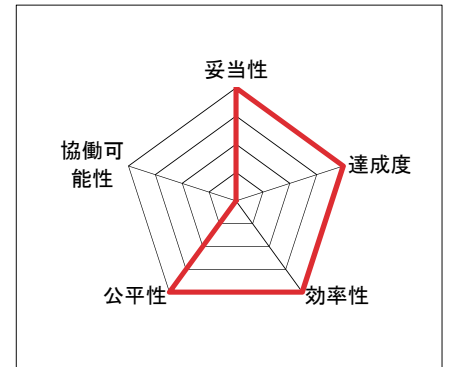
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 生活行動の多様化や住宅開発、大型商業施設開設に伴う自動車通行量の増加に伴う新たな環境問題の発生

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
3,668 千円 3,821 千円 153 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 現状維持
・前年度【コメント】
定期的な環境測定を継続していくとともに、事故発生時の対応シミュレーションを構築していく。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
定期的な環境測定を継続していき、事故発生時には、対応報告書を作成し、共有を図った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	4
効率性	4
公平性	4
協働可能性	—



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数 (人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	—	—	—	—
実績	—	—	—	—
(2) 協働の状況 (30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
環境調査は専門的な知識と技術が必要となるため市民との協働は不可				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
杓ヶ池での魚のえい死、自動車事故による油漏れによる水質汚濁、河川における水質汚濁に対して、関係部署及び関係機関と連携し、早期に対応した。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
事故発生時に臨機応変に対応していくため、事例研究を行い、対応シミュレーションを構築する必要がある。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	公害対策事業		担当部課	くらし文化部環境課	決算書ページ	—
事務事業名	②	公害対策整備事業	予算区分	4-3-1 公害対策費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	—	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 名古屋瀬戸道路と県道力石名古屋線周辺の自動車排気ガスの影響を測定
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 光化学スモッグの発生や、悪臭など都市生活型公害の発生を未然に防ぐため

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	32	37	37	37	38
		決算	32	37	0	37	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		大気汚染測定仮設電源工事				37	千円
(2)							千円
(3)							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
光化学オキシダント環境基準超過日	日	見込	5	5	5	5	5
		実績	0	4	—	0	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
県が所有する大気汚染測定車を県道力石名古屋線付近に設置し、大気汚染調査を約1ヶ月実施するもの。県実施事業を支援するもので、平成30年度は11月27日から12月19日まで実施。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

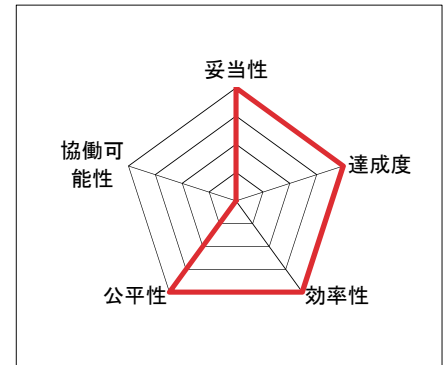
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
大型商業施設やモリコロパークへの来場者が急増し、名古屋瀬戸道路、県道力石名古屋線を通行する自動車が増加している。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
37 千円 38 千円 1 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 改善・見直し
・前年度【コメント】
大型商業施設の開設やモリコロパークでのイベントなどで、道路通行量が急増しているため、定期的な監視体制が必要となる。平成29度は実施しなかったが、平成30年度は平成28年度同様実施していく予定。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
平成30年度は、県実施事業である大気汚染測定を実施し、その支援を行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	4
効率性	4
公平性	4
協働可能性	—



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	—	—	—	—
実績	—	—	—	—
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
専門的知識と技術を要する調査であるため、市民との協働は不可				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
例年気温が高い9月頃に実施するが、急遽県の都合で11月中旬から12月中旬に測定が行われたため、光化学オキシダントが環境基準を超過する日は皆無だった。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
大型商業施設や、モリコロパークでのイベント開催に伴う来場者の増加に伴い、長久手インターを利用する自動車が増加する可能性があるため、引き続き注視していきたい。

7. 今後の方向性

拡充